

## 全日本スーパーフォーミュラ選手権 (SUPER FORMULA) TCS NAKAJIMA RACING、2019 年シーズン開幕に向けて チームマシンデザインおよびチーム体制を発表

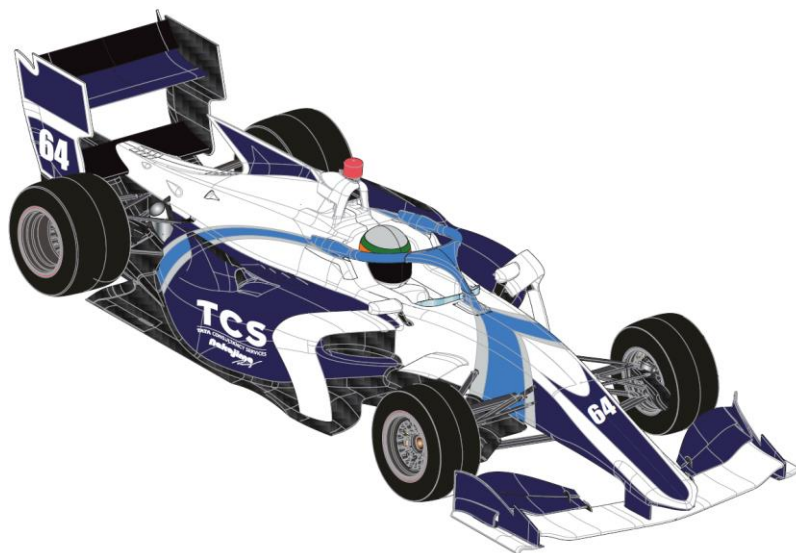
- TCS の社内コンテストによりマシンのカラーリングを刷新
- 2人の有望なルーキードライバーがチームに加入

東京 | 2019 年 1 月 30 日: タタコンサルタンシーサービシズ(以下、TCS)は、4 月 20 日～21 日に鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)で開幕する『全日本スーパーフォーミュラ選手権(以下、SUPER FORMULA)』2019 年シーズンに向けて、TCS NAKAJIMA RACING のチーム体制を発表しました。

TCS は、2017 年シーズンより SUPER FORMULA に参戦するレーシングチーム「NAKAJIMA RACING」(有限会社中嶋企画、代表取締役社長: 中嶋悟)のタイトルスポンサー兼テクノロジーパートナーとして、国内モータースポーツの活性化に加え、TCS がグローバルで蓄積した IT の知見と技術力を生かし、デジタル化の側面で継続的なサポートをチームへ提供しています。

### 5 年ぶりの新型シャシー導入に伴い、チームマシンのカラーリングを大胆にリニューアル

2019 年シーズンは新型シャシー「SF19」の導入に伴い、チームマシンのカラーリングを刷新します。新しいカラーリングは、TCS の社内コンテストによって選出された最優秀作品を原案として制作しました。NAKAJIMA RACING のチームカラーであるネイビー、ホワイトに加え、TCS のコーポレートカラーである「タタ・ブルー (Tata Blue)」を基調としつつ、2019 年シーズンから投入される「ヘイロー(ドライバーの頭部保護装置)」をデザインの構成要素に採り入れ、アルファベットの「X(エックス)」を大胆にレイアウトしました。



SUPER FORMULA 2019 年シーズンに挑む TCS NAKAJIMA RACING の「SF19」  
ヘイローの形状をカラーリングの一部に採り入れ「X(エックス)」の文字をレイアウトした大胆かつ斬新なデザイン

チームマシンのカラーリング案を起草し、コンテストの最優秀作品に選出された日本 TCS エンタープライズアプリケーションサービス統括本部の岡田有史は、カラーリングの着想について、次のように述べています。

「当社が顧客企業への支援として取り組む『DX:デジタルトランスフォーメーション(デジタル技術による企業の経営“変革”)』や『“未知(X)の可能性”』を想起させるモチーフとして『X』が象徴的でふさわしいと考え、サーキットを疾走するシーンでの観客席からの注目も意識し、ダイナミックに『X(エックス)』をレイアウトしました」

For immediate use **PRESS RELEASE**

TCS NAKAJIMA RACING の中嶋悟チーム総監督は、2019 年シーズンへの抱負について、次のように述べています。

「SF19 のデビューイヤーとなる今年、TCS とのパートナーシップも 3 年目を迎えます。初の試みとして、TCS 社内公募で決定したカラーリングを携え、この 2 年間で築き上げてきた経験を結果に結び付けていく大切な 1 年と認識しています。若い 2 人のドライバーと力を合わせて、優勝を目指して頑張っていきます」

また、日本 TCS 代表取締役社長のアムル・ラクシュミナラヤナン (Amur S. Lakshminarayanan) は、2019 年シーズンのスポンサーシップ活動への抱負について、次のように述べています。

「新シーズンは、チームの勝利へ貢献できるよう、当社がグローバルで培ってきたデジタルの知見を最大限に発揮するとともに、チームエンジニアやドライバーとの連携、協働を緊密にしつつ、昨シーズンにもまして技術支援を強化していきます。TCS NAKAJIMA RACING のドライバーたちが表彰台に立ち、チームやファンの皆様、そして、わが社の社員たちとともに勝利を分かち合える日が訪れることを固く信じ、チームと一丸となって充実したレースを展開していきます」

## 2 人の有望なルーキードライバーがチームに加入

SUPER FORMULA 2019 年シーズンに挑む TCS NAKAJIMA RACING には、アレックス・パロウ (Alex Palou) 選手 (64 号車) と牧野<sup>ただすけ</sup>任祐選手 (65 号車) がドライバーとしてチームに加わります。

去る 1 月 11 日から 13 日にかけて、幕張メッセ (千葉県千葉市) で開催されたカスタマーカーの祭典『東京オートサロン 2019』において、ホンダ (本田技研工業) から公式発表された SUPER FORMULA 2019 のチーム・ラインナップを受けて、両選手は新シーズンへの抱負について次のように述べています。

パロウ選手:

「新シーズンから TCS NAKAJIMA RACING でチャンピオンシップを戦えることを大変嬉しく思うとともに、日々モチベーションも高まってきました。近年、SUPER FORMULA は、自動車レースの世界最高峰である F1 へステップアップするドライバーも輩出していて、欧州でも注目が高まっているシリーズですので、結果を残せるよう、集中力を高めて開幕戦に臨みます。ご声援をよろしくお願いいたします」

牧野選手:

「SUPER FORMULA は強豪チームが多く、ドライバーのレベルも非常に高いレースですが、上位を狙ってフルスロットルで攻め続けます。TCS NAKAJIMA RACING で表彰台のレギュラーとなることが使命であると認識していますので、ファンの皆さんの期待に応えられるよう最大限のパフォーマンスを発揮していきます」



中嶋悟チーム総監督とともに 2019 年シーズンに挑む牧野任祐選手 (写真左) とアレックス・パロウ (Alex Palou) 選手 (写真右)

TCS は表彰台を目指し果敢にレースに挑むパロウ選手、牧野選手を応援します。

以上

**全日本スーパーフォーミュラ選手権(SUPER FORMULA) 2019年シーズン開催スケジュール:**

ラウンド	公式予選	決勝	サーキット
第1戦(開幕戦)	4/20(土)	4/21(日)	鈴鹿サーキット(三重県)
第2戦	5/18(土)	5/19(日)	オートポリス(大分県)
第3戦	6/22(土)	6/23(日)	スポーツランド SUGO(宮城県)
第4戦	7/13(土)	7/14(日)	富士スピードウェイ(静岡県)
第5戦	8/17(土)	8/18(日)	ツインリンクもてぎ(栃木県)
第6戦	9/28(土)	9/29(日)	岡山国際サーキット(岡山県)
第7戦(最終戦)	10/26(土)	10/27(日)	鈴鹿サーキット(三重県)

**全日本スーパーフォーミュラ選手権(SUPER FORMULA)について**

SUPER FORMULA は、1 シーズン(年間)全 7 戦を通じて行われ、11 チーム、国内外の 20 名のドライバーが国内 6 つのサーキットを転戦してチャンピオンシップを競う、アジアで唯一の国際格式フォーミュラ選手権シリーズです。SUPER FORMULA に出走する車両はレースに特化した競技専用で、シャシーは全チーム共通でダラーラ(Dallara)社製(イタリア)の「SF19」を使用する規定になっています。

シャシーに搭載されるエンジンは 2 リッター直列 4 気筒・直噴ターボエンジンで、各チームは HONDA(本田技研工業)製「HR-417E」または TOYOTA(トヨタ自動車)製「R14A」のいずれかを選択します。軽快かつ俊敏な走行性能を備えたマシンは、参戦するドライバーから「コーナリング速度は F1 以上」とも言われています。

SUPER FORMULA の特徴的なルールには、ミディアム、ソフトのコンパウンド特性が異なる 2 種類のタイヤの使用を義務付ける「2 スペックタイヤ制」と、決勝レースで 100 秒間の使用が許可される「オーバーテイクシステム(OTS)」があります。

「2 スペックタイヤ制」は、決勝レースにおいて、コンパウンド特性が異なる「ソフト」と「ミディアム」の 2 種類のタイヤをそれぞれ最低 1 回(1周回)使用することを各チームに義務付けるものです。一般的に、ソフトタイヤはグリップ力に優れる一方、耐久性ではミディアムタイヤが勝る特性があります。各チームのタイヤ戦略は、1 レースで数百キロメートルの長距離を走破する決勝において、レース展開に大きな影響を及ぼします。

「オーバーテイクシステム(OTS)」は、ドライバーがステアリングの「オーバーテイクボタン」を押すと、燃料流量の上限が拡大し、エンジン出力が増強されることで、前走するライバル車にオーバーテイク(追い抜き)を仕掛けるチャンスが生まれます。各ラウンドの決勝レースで、各ドライバーに 100 秒間の使用時間が付与され、オーバーテイクボタンの ON・OFF によって任意で発動・解除が可能なシステムです。

チームにとってポジションが変動する重要な戦略的要素である一方、ファンにとってはスリリングなデッドヒートを目の当たりにできる、レース観戦の魅力にもなっています。

SUPER FORMULA の詳細については、<https://superformula.net> をご覧ください。

**NAKAJIMA RACING について**

NAKAJIMA RACING は、日本人初の F1 フルタイムドライバー中嶋悟氏が 1991 年に F1 ドライバーを引退後、国内外の若手ドライバーの育成を目指して設立し、1992 年より自らが総監督を務めるプロフェッショナル・モーターレーシングチームです。

NAKAJIMA RACING は、レースでの勝利のみに目的を置くのではなく、より多くのファンや自動車業界の関係者から、内容が充実したイベントとして評価されることを重視しています。また、技術的な進化にとどまらず、自動車の社会性も考慮し、モータースポーツの振興に貢献することを目指しています。

NAKAJIMA RACING の詳細については、[www.nakajimaracing.co.jp](http://www.nakajimaracing.co.jp) をご覧ください。

For immediate use **PRESS RELEASE****タタコンサルタンシーサービシズ(TCS)について**

タタコンサルタンシーサービシズは、革新的かつ業界最高水準の IT サービス、コンサルティング、およびビジネスソリューションを世界中の大手企業に向けて提供し、その変革への道のりを支援している、IT サービス、コンサルティング、およびビジネスソリューション企業です。TCS はコンサルティングを基盤とし、コグニティブ技術を活用した BPS、エンジニアリング・サービスやソリューションを総合的に展開しています。これらを卓越したソフトウェア開発の基準として認識されている、TCS 独自の「ロケーション・インディペンデント・アジャイル・デリバリー・モデル (Location Independent Agile Delivery Model)」を通じ、地理的な制約にとらわれることなく提供しています。

TCS は世界最大規模の多国籍複合企業体であるタタグループに属し、最高水準のトレーニングを受けた 417,000 人を超える人材を擁し、世界 46 カ国で事業を展開しています。2018 年 3 月 31 日を末日とする会計年度の売上高は 190 億 9,000 万米ドルで、インドナショナル証券取引所とボンベイ証券取引所にも上場しています。また、気候変動に対する積極的な取り組みや表彰を受けた地域活動を世界中で展開しており、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックスや MSCI グローバル・サステナビリティ・インデックス、FTS4E グッド・エマージング・インデックスをはじめ、主要なサステナビリティ指数の構成銘柄に名を連ねています。TCS の詳細については、[www.tcs.com](http://www.tcs.com) をご覧ください。